



## 保護司活動で学んだこと



大田地区保護司会

副会長 渡邊 和夫

令和六年パリオリンピックの年になりました。昨今はスポーツが盛り上がり私の様な運動音痴でも話題にすることがあります。かたや、世界では紛争が続き、また自然災害、人間の増悪など目を見張ることばかりです。

森脇元会長さんから保護司の職を受けて三十数年、受け継いだ仕事が出来たかなと反省至極です。

昨年亡くなられた谷村新司さんの唄に「・・・きつと愛が足りない当たり前の愛が だから愛に帰ろう愛に帰りたい 帰りたい」と甘やかしてもいい、愛情一杯に育てれば。

今の非行、犯罪も少しは減るんじゃないかな。  
児童自立支援施設から脱走した子が帰ったのは親の元でした。親も気が

がつかない子供の思い。

私なりに携わって来た保護観察、面接終了後すぐに再犯もありました。そんな中、「心の内を明かしてくれた少年が一人いました。」一人でも少年の気持ちに聴けたことは私にとっても大きいものでした。

長く勤めてきて気になること「負のスパイラル」。家族の力、周りの力でも最後は本人の抜け出す力が必要なんだと。

更生保護、私にはまだまだ重い仕事です。今は自分に出来ること、家族を大切に、となり近所と仲良く身近なところからやって行こうと思っています。

第73回

# 社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築こうとするものです。

毎年7月は、「社会を明るくする運動」の強調月間です。  
 同じく7月が「再犯防止啓発月間」です。

令和5年7月3日(月)大田市役所庁舎前において、「第73回社会を明るくする運動」に係る内閣総理大臣メッセージを楫野大田市長に伝達しました。例年ですと、この日に併せて市内のまちづくりセンターや各小・中学校へ赴き「社会を明るくする運動」の作文コンテスト応募のお願いをしていますが、今年も密を避けるため、各地区の保護司が手分けして少し早めに行きました。



メッセージを読上げる竹村会長



大田地区保護司会と更生保護女性会の方々

メッセージ伝達式に併せて、会員数名で市役所を訪れた方々に、「社会を明るくする運動」のパンフレットと傷バンドを配布しました。この運動の趣旨を理解し、住民の方々へ少しでも啓発活動になり、人と人が繋がりが明るく笑顔が広がる明るい社会になるように、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



大田市役所前にて

## 第七十三回 社会を明るくする運動作文コンテスト

## 島根県BBS連盟会長賞

## 再び前へ

大田市立第三中学校

三年 益田 嘉 壺

僕は今、柔道部に所属しています。ですがもう柔道をする事は出来なくなりました。けがをしたからです。去年、部活の合同練習で頭を打ってしまいました。母に市立病院まで送ってもらい、その後、救急車で県立病院まで搬送されました。そして約一か月もの間入院をしました。入院生活を送る中でたくさんの人に迷惑をかけ、そしてたくさん助けられました。家族には一番近くで見守ってもらい、友達や先生方には手紙を書いてもらい、遠方の友人からもインターネットを通じて、「大丈夫？」などと励ましの言葉をもらいました。そのお陰で入院生活を頑張ることが出来ました。

この一件を通じて、僕は普通の暮らしの尊厳を知ることが出来ました。どうということか疑問に思う人もいるかもしれませんが、皆さん

は、今の暮らしがつまらないと感じたことはありませんか。僕も、入院する前まで、毎日つまらないな、もっと楽しい日々を送りたいなと思っていました。決して、そう思うことが悪いということではありません。ただ、そう思ったときにこそ、今こうして健康に暮らせていることが幸せであるということをおぼろげに思い出してほしくのです。僕は入院した時に、「歩く」というこれまでできて当然だったことが、急にできなくなってしまうことも辛かったです。できなくなると初めて、その当たり前がいかに幸せだったか気づきました。

僕は入院するまでの九年間、柔道をやってきました。柔道場は、夏は暑く冬は寒い上に練習がきつくて大変だったので、毎日のように柔道を辞めたいなと思ってやめてしまいたまにズル休みをし、怪我をしてやめてしまいたいとまで思うこともありました。すると本当に怪我をして、出来なくなってしまうことになりました。今まで辞めたいと思っていたことを辞めることが出来て、嬉しいかと思っていました。ですがなぜか、心にぽっかり穴があいたような気持ちになりました。何故だろうと考えてみると、本当は、僕は部活が好きだった

のだと思いました。辛い日々を、部員のみんなと一緒に頑張ることが、自覚していなかったけれど、楽しかったのです。

僕が言いたいことは、みんな後悔がないように過ごしてほしいということです。正直、自分は毎日のように後悔しています。あんなことをしなければ怪我しなかったのに、なんてことを、柔道場を通るたびに思います。落ち込んでいた僕に、母が「失ったものは大きいけど失ったものと同じくらい経験を得たよ。」と言ってくれました。僕が得たもの、それは一体なにかと考えたときに、感謝の気持ちなのだろうと気づきました。今こうして健康な体で学校に通う事ができ、去年は参加できなかった行事に参加できるようになったのも、たくさんの方が僕を支えてくれたからです。これからもそのことを忘れずにいたいのです。

僕はこれからも「ありがとう」という感謝の言葉を大切にしていきたいです。この作文を読んでいる皆さんにも感謝の気持ちを忘れないでほしいなと思います。感謝の気持ちを持つて過ごせば、今の自分が過ごしている日常がどんなに大事で尊いものか、きっと忘れずに過ごせます。たくさんの方が、そんな満ち足りた気持ちで生活することができれば、きっと社会はもっと明るくよりよいものになっていくのではないのでしょうか。



## 大田地区 保護司会活動

### 定期総会

令和五年五月二十九日、大田市民会館において令和五年度の定期総会と令和五年度第一期定期研修会を開催しました。午後から面接技法をテーマに田中統括保護観察官より研修を行い、終了後休憩を挟んで総会、竹村一秀会長あいさつ、功績のあった保護司の紹介披露、松江保護観察所藤井淑子所長あいさつの後、来賓として大田市役所健康福祉部布野部長様、大田地区更生保護女性会森脇会長様よりあいさつを頂戴しました。続いて議事に入り、令和四年度事業報告・決算報告・監査報告と続き、理事・役員改選を経て令和五年度事業計画・予算案を慎重審議により全て可決承認されました。



定期総会の様子

## 更生保護女性会と合同研修会

保護司会では、年に三回の定期研修会と自主研修を行っています。今回の自主研修は、更生保護女性会と合同の研修会を令和五年九月十六日に市民会館会議室において開催、松江の更生保護法人「しらふじ」の施設長矢野喜郎氏を講師としてお迎えし、施設の歴史・活動内容等詳しく説明していただきました。



この施設は、住む場所や身寄りのない仮出所した人たちを受け入れ、近隣で働きながらいろいろな支援や相談に乗ってもらう場所、「彼らの多くは孤独です。再犯に走る人も、仮出所が取り消される人も、わずかながらいます。でもここに来る人には、出来るだけ立ち直ってほしい。更生には息の長い支援が必要。」と話されていました。

### 定期研修会

- 第一期 令和五年五月二十九日  
『面接技法について』
- 第二期 令和五年九月十二日  
『報告書の書き方について』
- 第三期 令和五年十二月六日  
『事例研究』

## 更生保護を支えるボランティア団体

### ◎更生保護女性会

女性としての立場から、地域社会の犯罪予防活動と犯罪を犯した人の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体です。

### ◎BBS会

様々な問題を抱える少年・少女と、兄弟のような身近な存在として接しながら、悩みを聞き相談にのり、健全育成に協力しています。

### ◎協力雇用主会

犯罪・非行の前歴のために定職に就くことが容易でない刑務所出所者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主の方々です。

### ◎保護司

保護司は、犯罪を犯した人や非行に陥った人の立ち直りを地域社会の中で支えるボランティアです。

### 保護司の活動

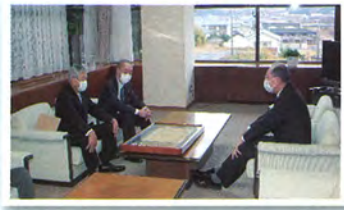
- ・ 犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるための見守り、指導、相談支援
- ・ 刑務所や少年院にいる人が帰ってくるための、住居・就労先などの生活環境の調整
- ・ 地域住民や学校等における犯罪や非行を防止するための啓発活動
- ・ 更生保護に対する地域の協力者の確保等

### 受章者 瑞宝双光章

令和五年秋の叙勲において、大田地区保護司会の小林昌次氏（富山町）が受章され令和五年十二月十九日、楳野大田市長に報告されました。小林氏は三十数年保護司として活動され、保護司会会長を務められ、「数々の活動の中で、隠岐地区保護司会・松江地区保護司会の皆さんとの合同研修会でお互いの悩みや喜びを話しあえる交流となったことが印象深く、これも一重に大先輩方、共に活動した保護司のおかげと感謝申し上げる次第です。」と報告されました。



左から三人目  
小林昌次氏、  
楳野市長



### 藍綬褒章

令和五年春の褒章において、更生保護功勞により大田地区保護司会の月森勝博氏（静間町）が受章され令和五年七月三日、楳野大田市長に報告されました。



左から竹村会長、  
楳野市長、月森  
勝博氏



月森氏は、約三十年近く保護司を務められ、当会の理事、企画調整保護司としても活動しておられます。市長とは同じ町内で昔話に花が咲きました。保護司会活動にも理解を求め、「この受章を心に刻んで、微力ながら更生保護の発展に寄与したい。」と決意を述べられました。

### 石見地区保護司代表者会議の開催

毎年、益田・浜田・大田・邑智地区で持ち回りで開催している表記の会が、長年コロナの影響で見送られてきましたが、この度、四年ぶりに令和五年十月六日に浜田地区主催で「千疊苑」において開催されました。

浜田地区保護司会竹山会長のあいさつの後、来賓として久保田章市浜田市長、松江保護観察所井田企画調整課長、島根県保護司会連合会秋間会長あいさつと来賓紹介をし開会。各

地区保護司会の課題等を協議し参考になる意見を共有し合い、会議終了後には夕食を伴い個別に意見交換、情報交換を行って活発な会議となりました。次回は、邑智地区主催での開催です。



令和五年度  
更生保護功労受賞者(敬称略)

更生保護活動功労により次の方が表彰されました。おめでとうございます。

法務大臣表彰

木村 昌晴  
毛利 敏則

全国保護司連盟理事長表彰

内藤 芳秀  
村田 有郷

中国地方保護司連盟会長表彰

森山 清二

松江保護観察所長表彰

齋藤 至剛  
林 啓慈

島根県保護司会連合会長表彰

大野 康成  
川上 英之  
三谷 耕司

島根保護観察協会理事長感謝状

岡田 三史



後列左から二人目 木村さん その隣 毛利さん



法務大臣表彰 左 木村さん 右 毛利さん

保護司新任者 (敬称略)  
令和五年六月一日付  
小原 和敏

保護司退任者 (敬称略)  
長年ご苦勞様でした。  
令和五年五月三十一日付  
松 下 誠  
森 慶 子  
川 上 孝太郎



全国保護司連盟理事長表彰を受ける  
内藤さん(中央)と右から二人目村田さん